

にじ

特集

昇格医師・新任医師のご紹介 … P3~P5

- 退職のごあいさつ（救命救急センター 医長 黒住 健人 医師）… P2
- 第25回高知医療センター職員による学会出張報告
（眼科 科長 市川 理恵 医師）… P6
- 地域医療連携病院のご紹介（医療法人長康会 室戸病院）… P7
- 高知医療センター ニュース Vol.1 … P7
- 高知医療センター イベント情報 … P8

5

MAY.2009 Vol.43



写真：高知県消防防災ヘリ「りょうま」で、高知県消防防災航空隊と高知医療センター医師とのホイスト降下の様子

高知医療センターの基本理念

医療の主人公は患者さん

高知医療センターの基本目標

1. 医療の質の向上
2. 患者さんサービスの向上
3. 病院経営の効率化

退職のごあいさつ

高知の救急医療について思うこと 救命救急センター 医長 黒住 健人

はじめに

高知医療センターの開院に向けて高知へ赴任し、開院以来4年に渡り救急医療に携わりましたが、この度、帝京大学外傷センターの設立に伴い退職することとなりました。この間に私が感じたことをそこはかたなく書かせていただき、この後の高知県の救急医療改善への一助になればと思います（開院以来の救命救急センターの歩み、ヘリ搬送については、にじ3月号(Vol.41)で森本雅徳救命救急センター長が詳細に述べていますので割愛させていただきます）。

整形外科医として

私は整形外科をバックグラウンドとした救急医ですので、救命救急センターのなかでは外傷を中心に携わり、整形外科チームとして、初療→手術→入院→リハビリ→術後経過観察と、一貫して患者さんを診ることを理想としてきました。とはいっても入院ベッドに対する患者搬送数が多すぎ、また“急性期病床”という私たちには全くそぐわない制度のために、術後のリハビリを近医の先生方をお願いせざるを得ないことも多く、本意な状況でした。さらに、一時は手術室や麻酔科の問題も起こり、手術自体にも対応が困難となり、合併症の少ない単独骨折などはお断りをせざるを得ない状況となっていました。

このような状況を鑑み、何とか救命救急センターという立場上、三次救急に特化できないか、二次医療機関での輪番制などは可能なのかと考えた時期がありました。現在もそのような考案があるようには聞きますが、少なくとも私の在任中には実現されませんでした。何とか既存の機関の間で役割分担はできないのでしょうか？高知医療センター自体の医療資源（医師や手術室の数）にも限りがありますので、“本当に必要な症例”が来た際に力が発揮できるように、ある程度の余裕が必要ではないかと思ってやみません。

病院前救護

上記のごとく、外傷治療の理想を追求し続けてきたわけですが、やはり、特に重症外傷は患者さんと接触するまでの時間で予後が大きく左右されます。そのような状況の際に病院で患者さんを待っているだけでは、長時間搬送が当たり前となっている高知県では救える命も救える機能も救えません。救急車同乗もさせていただきましたが、現場の救急隊は本当に一生懸命頑張っています。しかし、近隣に受け入れ先がないのも現状です。そこで登場するのが“りょうま”です（上写真）。

いろいろとご協力いただいて、通常では経験できないであろうホイス降下（本誌表紙写真を参照）など、いろいろな経験をさせていただきました。救出から搬送時間の短縮まで一気に達成でき、上記目標達成に一步近づけたのではないかと思います。同様に洋上救急に携わる機会もあり、海上保安庁との連携も勉強させていただきました（本誌P7下関連記事を参照）。まだまだ探ればいろいろな病院前救護の改善の可能性があると思います。



黒住健人医師とりょうま

災害医療

高知県は南海地震に備えていろいろな準備を進めているわけですが、当院も基幹災害拠点病院として位置付けられています。訓練というのは得てして形骸化するものですが、忘れもしないボンバル機の胴体着陸の際にDMATとして実際の出勤も経験しました。幸い惨事には至りませんでした。幸い“究極の訓練”を体験させていただきました。その後も小規模ながら硫化水素の集団災害もあり、その都度、高知県下全体で検討会を開けるような、他の機関・病院と顔の見える良い関係を築け、本当に良かったと思います。

個人的には、皆さまのご理解のもと、ジャワ島中部地震にも派遣させていただき、JICA 国際緊急援助隊にも登録させていただきました。災害も超急性期が過ぎれば多くは外傷治療が必要な患者さんで溢れかえっています。このような部分でも整形外科医をバックグラウンドとした救急医の活動の場面を見出せたと思っています。

まとめ

思いつくままに勝手なことを書きましたが、この4年で随分いろいろなことを勉強させていただきました。今後は東京の方で同じく救急・外傷治療に携わっていきます。東京でも墨東病院の婦人科救急の問題が大きく取りざたされましたが、救急体制が確立されているとは言えないようです。高知は重症を扱える病院の数も少なく、逆に全体を把握しやすい状況にあると思います。高知の高知らしい救急体制が築けるように、今後も情報交換を続けていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

特集

昇格医師・新任医師のご紹介

この度、4月より高知医療センターに新しく昇格・赴任された先生方のご紹介をいたします。

- ①所属科 ②経年数 ③専門分野 ④職歴 ⑤所属学会、認定医、専門医、指導医など
⑥趣味 ⑦自己紹介

昇格医師のご紹介

木下 宏実 (きのした ひろみ)

①婦人科 科長 ②15年目 ③更年期、女性医学 ④徳島大学産科婦人科教室入局、高知市民病院を経て、平成21年4月より高知医療センター婦人科科长に ⑤産科婦人科学会専門医、母体保護医 ⑥本を読むこと、映画をみること



⑦できるだけ患者さんにとって納得できる治療が受けられるように心がけていきます。また、悪性腫瘍の治療や腹腔鏡下の治療も幅広く行っていますので、ご紹介をよろしくお願いいたします。

新任医師のご紹介

中井 浩 (なかい ひろし)

①一般・乳腺内分泌外科 医長 ②18年目 ③一般外科 ④総合診療、救急、一般外科で勤務後、平成21年4月より高知医療センター一般・乳腺内分泌外科に ⑤日本外科学会、日本救急医学会、日本内科学会 ⑥テニス、子供と遊ぶこと



⑦出身は香川県の片田舎です。大学も香川医科大学です。これまで総合内科、救急、一般外科と従事してまいりました。今回一般外科を勉強するために当院にやってまいりました。患者さんのために頑張ります。よろしくお願いいたします。

後藤 振一郎 (ごとう しんいちろう)

①小児科 医長 ②12年目 ③小児科一般、小児アレルギー ④岡山大学医学部附属病院、岡山赤十字病院、松山赤十字病院、住友別子病院を経て、平成21年4月より高知医療センター小児科に ⑤日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会、日本小児感染症学会 ⑥読書など



⑦この度はお世話になります。アレルギーを専門としていますが、今までは小児科一般を広く浅く診療してきました。これからは新生児に関しても勉強して、地域の皆さまのお役に立てればと考えています。よろしくお願いいたします。

松本 俊之 (まつもと としゆき)

①整形外科 医長 ②13年目 ③外傷 ④岡山済生会総合病院、近森病院、香川労災病院、成羽病院、香川県立中央病院を経て、平成21年4月より高知医療センター整形外科に ⑤日本整形外科学会専門医 ⑥ダイビング



⑦整形外科の松本です。高知県で勤務するのは今回で2回目です。外傷を中心に頑張っていると思っていますので、よろしくお願いいたします。

志摩 泰生 (しま やすお)

①消化器外科 科長 ⑤日本外科学会、日本消化器外科学会(日本消化器外科学会専門医、指導医)、日本臨床外科学会、日本肝胆膵外科学会(日本肝胆膵外科学評議員、高度技能指導医)、日本消化器病学会(日本消化器病学会専門医)、日本膵臓学会、日本肝臓学会、日本胆道学会、肝癌研究会など



⑦この度、西岡地域医療センター長の後任として、消化器外科科長に任命されました。高知県立中央病院に赴任以来、高知にまいりまして、はや8年目となりました。諸先生方には以前と変わらず多くの患者さんをご紹介いただき、ありがとうございます。今年度は多くの外科系スタッフおよび専修医に恵まれ、今まで以上に多くの消化器外科、一般外科の患者さんに全国レベルの治療を提供できる体制となりました。また、腹部救急にもさらに力を入れたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

田村 竜也 (たむら たつや)

①リハビリテーション科 副医長 ②10年目 ③整形外科 ④徳島大学病院、関連施設などを経て、平成21年4月より高知医療センターリハビリテーション科に ⑤日本整形外科学会専門医、日整会認定脊椎髄病医 ⑥釣り



⑦徳島大学整形外科入局後、四国内の関連病院を中心に研修し、平成21年4月1日より、高知医療センターリハビリテーション科に勤務しています。当院は脊椎外科、関節外科、外傷など症例数も多く忙しいですが大変勉強になります。一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。

木口 久子 (きぐち ひさこ)

①小児科 副医長 ②10年目 ③小児循環器 ④岡山大学附属病院小児科、国立福山病院小児科、広島市民病院小児科を経て、平成21年4月より高知医療センター小児科に ⑤日本小児学会専門医、日本小児循環器学会暫定指導医 ⑥旅行、食べ歩き、ピアノ



⑦はじめまして。高知医療センターで小児循環器を担当することになりました。これまで胎児から成人の先天性心疾患、また川崎病などを中心に勉強してまいりました。患者さん、ご家族、そして医療スタッフが疾患について理解し、みんなで協力して一緒に病気と付き合っていけることを目標に頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

ひきつづき新任医師のご紹介は
4ページに続きます。



ひきつづき新任医師のご紹介

立石 善久 (たていし よしひさ)

①歯科口腔外科 副院長 ②10年目
③口腔外科 ④徳島大学大学院歯学研究科卒業し、徳島大学歯学部附属病院臨床研修医、高知大学医学部歯科口腔外科助手を経て、平成21年4月より高知医療センター歯科口腔外科に ⑤日本口腔外科学会、日本口腔学会、日本癌学会、日本頭頸部学会、日本口腔インプラント学会



⑦10年間大学で学んだ知識と経験を高知医療センターで十分に活かせるように精進したいと思いますので、よろしくお祈りします。

米田 泰史 (よねだ やすし)

①整形外科 副院長 ②9年目
③一般整形、骨軟部腫瘍 ④岡山労災病院、香川労災病院、岡山大学(大学院)を経て、平成21年4月より高知医療センター整形外科に ⑤整形外科専門医⑥絵画鑑賞、旅行



⑦はじめまして、米田泰史と申します。岡山大学卒業9年目の整形外科医です。整形外科では稀ではありますが、大学で研究していたということもありまして、腫瘍(できもの)を専門にしています。特に四肢のできものでお困りの症例がございましたら、どのような症例でも構いませんのでご紹介いただければ幸いです。毎週金曜日以外来をしています。よろしくお祈り申し上げます。

専修医のご紹介

上月 章史 (こうづき あきひと)

①一般外科・乳腺内分泌外科 専修医
②8年目 ③消化器外科、一般外科
④神戸大学卒業、国保旭中央病院にて初期研修後、外科勤務。済生会宇都宮病院外科を経て、平成21年4月より高知医療センター一般外科・乳腺内分泌外科に ⑤日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本臨床外科学会、日本腹部救急学会、日本肝胆膵外科学会、日本乳癌学会 ⑥音楽



⑦兵庫県出身(苗字が珍しい名前だと思います)ですが、7年ほど関東で勤務し四国は初めてです。前任地では3次救急を含めた救急医療、消化器がん・乳がんを中心とした癌治療に携わってきました。高知医療センターでは、肝胆膵外科・腹腔鏡手術の分野で研鑽を積み、救急医療にも頑張っていきたいと思っています。今後ともよろしくお祈りいたします。

松村 知憲 (まつむら ともりの)

①一般・乳腺内分泌外科 専修医
②6年目 ③一般外科 ④羽生総合病院にて初期研修、外科後期研修し、平成21年4月より高知医療センター一般・乳腺内分泌外科に ⑤日本外科学会、臨床外科学会、腹部救急学会、乳癌検診学会 ⑥釣り、スキーなど



⑦このような大病院で勤務するのは初めての経験です。微力ではありますが、高知県の医療に少しでも携わることができれば幸いと考えています。よろしくお祈りいたします。

西 正暁 (にし まさあき)

①一般・乳腺内分泌外科 専修医
②5年目 ③一般・消化器外科 ④徳島市民病院、徳島大学病院・消化器移植外科を経て、平成21年4月より高知医療センター一般・乳腺内分泌外科に ⑤日本外科学会、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本肝胆膵外科学会など ⑥野球



⑦5年目の西と申します。初期研修修了後、消化器外科を中心に研修してまいりました。高知に来てまだ間もないですが、充実した日々をおくらせていただいています。先生方やスタッフの方々、そして地域の皆さまに信頼していただけるよう、一生懸命頑張りたいと思っています。今後ともご指導よろしくお祈り申し上げます。

原 慎吾 (はら しんご)

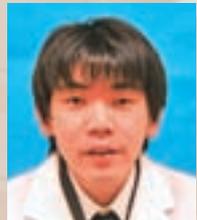
①歯科口腔外科 専修医 ②8年目
③口腔外科 ④大阪大学歯学部を卒業、愛媛大学医学部附属病院・歯科口腔外科研修医、その後、愛媛大学大学院・医学系研究科を卒業、日本学術復興会・特別研究院(PD)、愛媛大学医学部附属病院医員を経て、平成21年4月より高知医療センター歯科口腔外科に ⑤所属学会：日本癌学会、日本頭頸部癌学会、日本口腔腫瘍学会、日本口腔外科学会、日本口腔科学会、日本口腔組織培養学会 ⑥ゴルフ、ダイビング、音楽鑑賞、人と話すこと



⑦大学在学中は癌の研究をしていましたが、臨床を一から学ぶつもりでこの度、高知医療センターの歯科口腔外科に赴任してまいりました。当科では外科的矯正治療、口腔腫瘍、摂食嚥下訓練、インプラント、外傷、障害者歯科など多岐に渡る治療が行われています。患者さんを自分の家族のように思い、患者さん本位の治療を心がけてまいりたいと思いますので、ご指導よろしくお祈り申し上げます。

砂田 哲 (すなだ さとし)

①小児科 専修医 ②5年目 ④尾道市立市民病院、札幌天使病院を経て、平成21年4月より高知医療センター小児科に



⑦よろしくお祈りいたします。

中山 智理 (なかやま のりよし)

①一般・乳腺内分泌外科 専修医
②5 年目 ③小児外科 ④昭和大学病院
小児外科を経て、平成 21 年 4 月より
高知医療センター一般外科・乳腺内分
泌外科に ⑤日本外科学会、日本小児
外科学会 ⑥運動、ドライブ
⑦今年 4 月より外科研修のため、高知
医療センターにまいりました。四国に足を踏み入れるのも
初めてです。知識・技術だけでなく、人間として成長でき
ればと思います。ご指導のほどよろしくお願いいたします。



大石 一行 (おおishi かずゆき)

①一般・乳腺内分泌外科 専修医
②5 年目 ③消化器外科 ④武蔵野赤
十字病院、済生会宇都宮病院を経て、
平成 21 年 4 月より高知医療センター
一般・乳腺内分泌外科に ⑤日本外科
学会、日本消化器外科学会、日本臨床
外科学会、日本救急学会、日本内視鏡
外科学会、日本内視鏡学会、日本腹部救急学会
⑥海外旅行、音楽など
⑦外科医としては 3 年目です。まだまだ不慣れなところも
あり、これから精進していきたいと思っています。これか
ら多々ご迷惑をおかけするとは思いますが、どうぞよろし
くお願い申し上げます。高知県は以前何度か来ており、大
好きな土地です。美しい自然とおいしい料理と温かい地域
の人々との交流を楽しみにしています。



所谷 知穂 (ところだに ちほ)

①小児科 専修医 ②4 年目 ④高知医
療センター研修医を経て、平成 21 年 4
月より専修医として小児科に ⑥ス
ポーツ観戦
⑦高知医療センターにて研修医を修了
し、小児科スタッフとなりました。よ
ろしくお願いいたします。



山根 光知 (やまね こうち)

①麻酔科 専修医 ②4 年目 ④岡山中
央病院、岡山大学病院麻酔科を経て、
平成 21 年 4 月より高知医療センター
麻酔科に ⑤麻酔科学会
⑥海外旅行、カフェめぐり
⑦まだまだ未熟者でご迷惑をおかけし
ますが、よろしくお願いいたします。



藤野 晋 (ふじの すずむ)

①心臓血管外科 専修医 ②3 年目
③心臓血管外科全般 (虚血性心疾患、弁
膜症、大動脈疾患、末梢血管など) ④
滋賀医科大学附属病院で研修後、平成
21 年 4 月から高知医療センター心臓血
管外科に ⑥車全般 (運転、整備、モー
タースポーツ)
⑦前職はコンピューターのプログラマーをしており、医療界
に転進しました。本年 4 月より高知医療センター心臓血管
外科でお世話になることになりました。患者さんにご満足い
ただけるよう、関係医療機関の皆さまのご協力を賜りながら、
ご期待に沿えるよう誠心誠意対応させていただきます。何卒
よろしくお願いいたします。



村岡 玄哉 (むらおか げんや)

①一般外科・消化器外科 専修医
②3 年目 ③外科 ④りんくう総合医
療センターで初期研修を経て、平成
21 年 4 月より高知医療センター一般・
乳腺内分泌外科兼消化器外科に ⑤日
本外科学会、日本救急医学会、日本消
化器外科学会、日本外傷学会
⑥スポーツ、旅行、読書
⑦はじめまして。3 年目外科専修医の村岡といいます。豊
富な症例数と幅広い専門分野を通して、外科の勉強をさせ
ていただくために高知にやって来ました。地域連携を密に
高知県民・市民のため、より良い医療をご提供できるよう
頑張りたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



溝渕 憲子 (みぞぶち のりこ)

①腎臓・膠原病科 専修医 ②3 年目
⑥散歩
⑦愛媛県松山市出身です。日本一の日
照時間や森林面積、ビールの消費量日
本一などの記録を持つ高知はユニーク
なところだと感じています。初期研修
を終え、腎臓・膠原病科で勉強させて
いただくことになりましたが、腎臓は、循環器、内分泌、
泌尿器科的要素のつまったこれまたユニークな臓器だと思
います。よろしくお願いいたします。



3 月 31 日付 退職医師 (敬称略)

片岡 功一 (小児科)、曾我 まゆみ (小児科)、藤井 洋輔 (小児科)、薄井 佳子 (小児外科)
黒住 健人 (整形外科)、中田 英二 (整形外科)、山岡 肇 (消化器科)、後藤 正和 (消化器外科)
西村 公男 (消化器外科)、浜田 暁 (麻酔科)、楠瀬 真奈 (循環器科)、岡本 典子 (歯科口腔外科)
鈴木 朋 (歯科口腔外科)

第25回：医療センター職員による学会出張報告



高知医療センターの医師はいろいろな学会に参加しています。そのなかから、学会レポートをご紹介します。

第113回日本眼科学会総会 in 東京

2009年4月16日～4月19日

眼科 科長 市川 理恵



学会会場前



2009年4月16日～4月19日に日本大学・澤充総会長のもと、開催されました。場所は東京国際フォーラムで便利ですが、いつも会場間の動線は不便でわかりにくい会場です。

この学会は、専門医取得を志向する眼科医全員が加入しています。113回という回数にみられるように伝統の学会で、今回のテーマは“視覚科学の創造”でした。もともとは基礎研究の発表の場でありましたが、昨今は生涯教育のプログラムを設け、一般眼科医にも退屈させない構成になっています。特別講演2題、招待講演3題、評議員会指名講演3題、シンポジウム、教育セミナー、専門医講習会、市民公開講座と内容は盛りだくさんでした。これに一般演題、モーニングセミナー、ランチョンセミナー、イブニングセミナーと朝から夜まで、弁当で3食の食事を済ます羽目となりました。

初日に印象的であったのは、京大分子生物学・長田重一教授のアポトーシスと死細胞の貪食の講演です。緑内障の視神経障害は、網膜神経節細胞のアポトーシスで起こると言われ、その関連で招待されたPhDの講演で、「マウスでの実験結果、その解釈、実験の企画」などをわかりやすく説明されました。アポトーシスで死んだ細胞は、



器械展示：画像診断

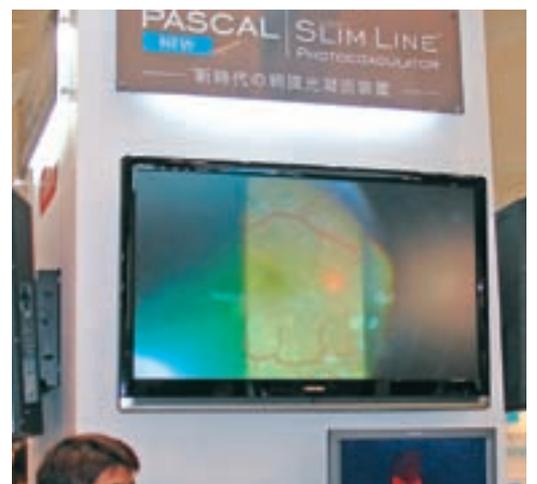
表面にサイトカインの目印がつき、瞬時にマクロファージに貪食処理されます。アポトーシスが起これば

ば巨大な臓器になり癌化し、また、貪食された核酸の処理ができず貯留すると、関節リウマチなどの自己免疫疾患を誘発するなど、病態解明に繋がる研究は興味深かったです。

特別講演の京都府立医大木下茂教授の「角膜疾患の未来医療」は、あきらめていた難治性角膜疾患への目新しい治療法の進歩を供覧されました。培養した角膜や口腔粘膜上皮の移植、スティーブンスジョンソン症候群の遺伝子解析、初期のステロイドパルス療法およびリンデロン点眼治療の重要性、培養角膜内皮細胞シートの移植など、未来医療を見据えて行っている研究成果を講演されました。

評議員会指名講演は従来の宿題報告に代わるもので、眼疾患と動物モデルの演題で3名の講演がありました。東京大学の相原一医師は緑内障研究モデルとしてマウスを選び、まず小さい目の眼圧測定方法を開発し、入念に企画された実験を段階的に進め、高眼圧モデルマウスで緑内障の病態解明へと研究を進めています。名古屋大学の近藤峰生医師はERGの研究にはまり、世界で初めてウサギで網膜色素変性症モデルを9年の歳月をかけ作成し、網膜色素変性症のERGによる解明を進め、さらに神経栄養因子の徐放剤スティックの眼内挿入や人工視覚の移植など、新規治療法の開発研究へ応用していることを楽しく講演されました。

このほか、進歩した光干渉断層計(OCT)は、網脈絡膜組織の断面を見るような鮮明な画像が描出されるようになり、実際の組織像と対比した各種眼底疾患を供覧したセミナーや、抗血管新生治療薬、ベージェット病レミケード治療、視神経脊髄炎と多発性硬化症の鑑別にアクアポリン4の検出が有用で、重篤な視神経障害をきたさないように治療することが重要など、講演が臨床に有用で印象に残りました。OCTはぜひ当院でも購入が必要と考えられます。



網膜光凝固装置：最新型はスタンプで同時に多数凝固できる。



医療法人長康会 室戸病院

〒781-7107 室戸市元甲 435-6
 電話：0887 (23) 2345 FAX：0887 (24) 2003
 URL:<http://www.myclinic.ne.jp/muroto/pc/index.html>

(診療科)
 内科、外科、眼科、胃腸科、循環器科、小児科、脳神経外科、
 皮膚科、放射線科、リハビリテーション科
 (関連施設)
 居宅介護支援事業所「つどい」、ヘルパーステーション「つどい」、
 デイサービスセンター「つどい」



写真：左から戎井徹事務長、船戸豊彦先生、大石文香看護師長



医療法人長康会室戸病院は、昭和58年7月1日に室戸診療所として開院し、平成9年2月1日に医療法人長康会室戸

病院（一般病棟50床）となりました。また、平成12年7月には居宅介護支援事業所「つどい」、ヘルパーステーション「つどい」を開設し、平成15年8月にはデイサービスセンター「つどい」を開設され、最先端の診療をご提供しつつ、患者さんの生活の質（QOL）を損なわない治療を目指されています。今回は、船戸豊彦先生と戎井徹事務長、そして大石文香看護師長にお話を伺いました。

(A：高知医療センター B：室戸病院)

A：高知医療センターとの連携において、ご意見などはございませんか？

B：高知医療センターは相談をすれば受け入れていただけるので、一次救急などを行っている当院のような医療機関は大変助かっています。とくに循環器や脳血管障害、急性浮腫など、緊急の際に電話をするといつも受け入れていただいています。高知医療センターが開院するまでは、受け入れ先を探すのが大変でしたし、受け入れてもらえなかった症例もありましたが、現在は受け入れていただく医療機関ができ、患者さんも

良くなって戻ってきています。

A：高知医療センターで治療を終えた患者さんが貴院に戻られた場合など、問題はありますか？

B：手術などして落ち着いた後、当院に戻って来られる場合もとくに問題はありません。ただ、マスコミ報道などを聞いて少し心配です。もし何かあって受け入れていただける医療機関がなくなったら困りますし、医療センターで治療を受け、今までだったら助かっている患者さんが助かっているのは事実だと思いますので、何とか現状維持で存続をして欲しいと思います。以前はくも膜下出血の患者さんが来られた際に、受け入れ先がすぐに見つからないことがあり困ったこともありましたが、今は医療センターがあるということで、まず当院で患者さんを受け入れて、その後、医療センターをお願いするということができるようになりました。受け入れ先がないという心配がなくなったことによって、当院のような一次救急の医療機関は大変やりやすくなったと思います。

A：医療センターから患者さんを貴院にお願いすることもありますが、その後は後方の病院へ移られますか？

B：なかなか後方の療養病床がなく、探すのが困難なこともあります。近くの室戸中央病院に長期療養型病床がありますので、よく連携をしています。転院相談などは、医師と看護師長、関連施設と連携をして調整を行っています。基本的に転院のご相談は医師までご連絡いただければと思います。当院は、室戸で唯一の一般病棟ですので、地域に密着していろいろな疾患に対応していきたいと思っています。

お忙しいなか取材にご協力いただきありがとうございました。

NEWS
Vo.1

第五管区海上保安部長から 感謝状をいただきました！

高知医療センター救命救急科の医師2名（齋坂雄一医師、田中公章医師）は、平成20年8月初旬、室戸岬沖を航行中の韓国籍の貨物船船内で、負傷した同乗組員への往診要請を受け、関西空港海上保安航空基地所属のヘリコプターに乗機し現場に急行しました。二人は機動救難士により吊り上げ救助された負傷者への応急処置を実地し、その後、高知龍馬空港から救急車で高知医療センターに搬送しましたが、この活動が、「洋上救急に積極的に協力し、航空機内において的確な医療措置を行い、負傷者の救助に多大なる貢献をされた」として評価され、平成21年1月22日（木）に、高知海上保安部長より二人に感謝状が授与されました。

写真：左より齋坂雄一医師、田中公章医師



日	曜	5月～			
8	金	高知の医療を考える公開講座シリーズ その4～高知の循環器医療を考える公開講座～			
		内容	一般講演「当院循環器病センターの治療成績 ～不整脈治療を中心に～」	講師	高知医療センター 循環器科 医長 伴場 圭一 氏
			特別講演「慢性心不全の病態と治療戦略」		岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 循環器内科 教授 伊藤 浩 氏
		場所	高知医療センター 2階 くろしおホール	時間	18:30～20:10
		共催	高知医療センター、日本メドトロニック株式会社		
お問い合わせ：高知医療ピーエフアイ株式会社 川田					
16	土	第26回国四国新生児医療研修会			
		内容	四国の新生児医療に従事する医師と看護師の研究発表（演題16題、講演1題）		
		場所	高知医療センター2階 くろしおホール	時間	10:00～15:40
		共催	四国新生児医療研究会、田辺三菱製薬株式会社		
お問い合わせ：幡多けんみん病院 小児科 武知 知己 先生 電話：0888（66）2222（代表）					
23	土	第6回地域医療連携研修会			
		内容	皮膚科症例の検証～高知医療センターの症例より～	講師	高知医療センター 皮膚科 科長 高野 浩章 氏
			高知医療センター・外来看護師の糖尿病患者さんへの 関わり～フットケアを中心に～		高知医療センター 看護師 宗石 育子 氏
		場所	高知医療センター2階 くろしおホール	時間	14:00～15:40
お問い合わせ：高知医療センター 地域医療連携室 大西 信子					
25	月	第38回高知医療センター救命救急センター救急症例検討会			
		場所	高知医療センター2階 くろしおホール	時間	17:30～
お問い合わせ：高知医療センター・救命救急センター					
6/20	土	第3回高知県輸血・細胞治療研究会			
		内容	血液型抗原と臨床の関わり	講師	南大阪赤十字血液センター 谷 慶彦 氏
		場所	高知医療センター2階 くろしおホール	時間	13:30～16:00
		主催	高知県輸血・細胞治療研究会 参加料 1,000円		
お問い合わせ：高知県輸血・細胞治療研究会 事務局、高知大学医学部附属病院 血液科 副部長 今井 潤 先生					
7/9	木	第6回高知医療センター地域医療（内科系）症例報告会			
		場所	高知医療センター2階 くろしおホール	時間	19:00～
お問い合わせ：高知医療センター 呼吸器・アレルギー科 土居 裕幸					

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。背景に色がついている講座は是非、地域の医療機関の皆さまにご参加いただきたいものとなっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

4月から新しい仲間を迎えて1ヶ月がたとうとしています。せめて、自分が支えてもらったときのように仲間を支えたい。そんな思いを強くする季節が今年もきました。業務を行うなかで支えあいながらの毎日は、自分が社会人になったばかりの頃を思い出させてくれます。右も左もわからずに上司や先輩に守られながら過ごした新人時代、時には患者さんからお叱りを受けたこともありました。自分が業務のなかで身につけたことを伝える立場になった時、まだまだ勉強不足で新しい仲間と一緒に成長しなければと感じます。（まごころ窓口 千頭）



平成21年5月1日発行
にじ 5月号（第43号）
責任者：堀見 忠司
編集人：地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元：地域医療センター
地域医療連携本部
印刷：共和印刷株式会社

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
Kochi Health Sciences Center Home Page : <http://www2.khsc.or.jp/>

高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL : 088 (837) 3000 (代)